第3回 研修旅行特集号

旅と文化

発行所
東京都千代田区神田神保町2－30
財団法人全国修学旅行研究協会
電(30)0531・2426
編集・発行人
永井熙

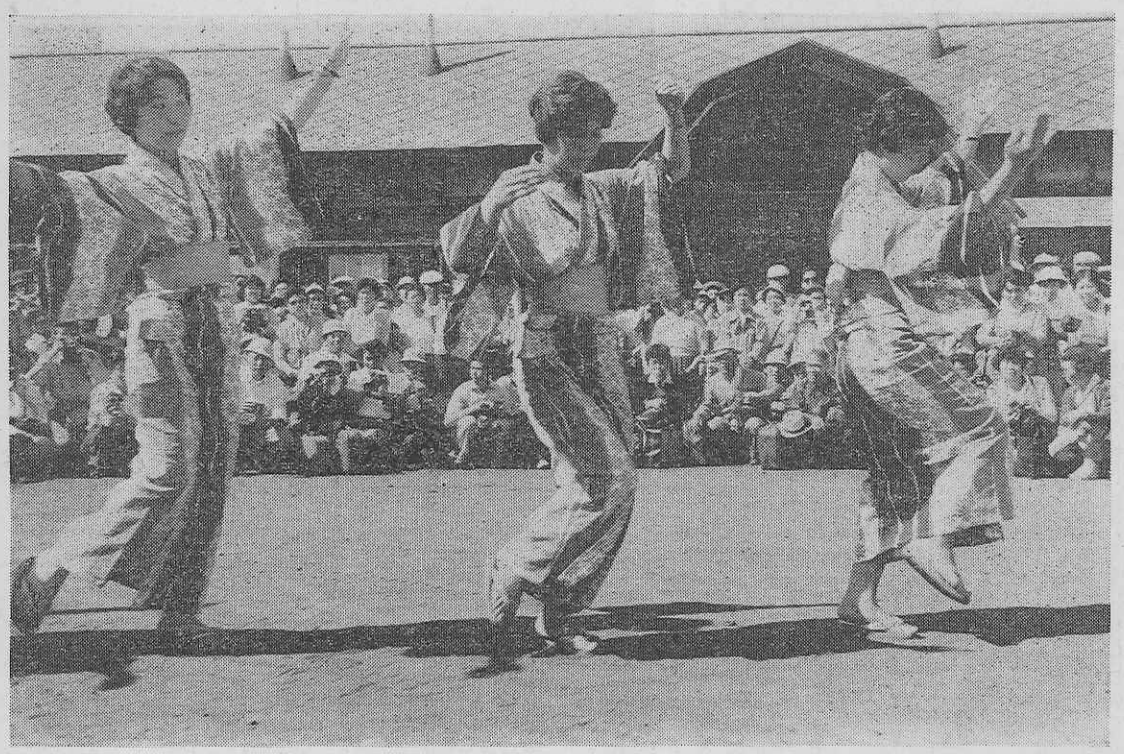
本紙の主な内容
②頁③頁　★第3回北海道九州研修行写真コンクール入選作品発表★35年夏の研修施行の案内
④頁　★第3回研修旅行参加者の座談会★写真コンクールの入選者の氏名★添来員のお手柄東京駅でスリを捕える

全国教職員参加 一万名

快適な臨時列車による現地視察

明日の教育に役立つ研修施行

北海道、九州への研修旅行は、全修協が三年前から実施しているが、既に総計一万名以上の教職員が全国より参加されている。この研修旅行は、教職員が夏休みを利用して約十日間の専用臨時列車による快適な現地視察を行うもので、これは明日の教育に役立つばかりでなく人格を陶冶し識見を高めることができる。本年夏の研修旅行は例年の如く盛大に行われたが本号は参加者の声、写真コンクール入選作品、各地の反省会等を特集してみた。



推薦
第3回研修旅行写真コンクール入選作品
東京都大島中学校　初田一郎

若さに溢れる 未来の国、北海道

全修協香川縣支部長
吉田一三

北海道は別世界である。オホーツク海の晦冥な怒涛と原生花園、しかも夏を感じない。北海道の雄大な景観は霧に隠された神秘があり詩がある。しかも北海道には現代がある。網走の稲作、バター工場、ビール工場、製鉄所、パルプ工場、大学等々、すべて日本の未来であり、狭い日本の夢でもある。

この夢と未来のコンプレックスした北海道の旅へ参加した私にとっては、若さがあふれてくるような生々しさを感じた。参加者が郷土色をだした標旗、「松山藩二十四万石」「山口藩二二〇万」に、一同苦笑、「反魂丹」の富山、駅弁の紙で作った「幡の琴平大権現」を押し立てて行く。夜行列車の退屈の絶頂に「琴平大権現」の行列「阿波踊」「ヨサコイ節」が慰問に来る。自由な空気には沈滞が無い。日本社会の一つの特長に「封建性」という言葉があり、女性が一身に引き受けている。しかるに参加者の過半数は女の先生で、旅行を大いに楽しんでいる。また夫婦が多い、夫婦の記念撮影風景は全くほほえましい。封建性の拠点である家庭も解放されている。日本社会の明るい面を見たようで非常に気持がよかった。人生は楽しむものである。

第3回研修旅行写真コンクール入選作品
特選　長野県緑丘中　久保田義人

哀愁残すアイヌ部落

奈良縣吉野工業高校
吉本千代子

快適の旅を念じつつも未知の旅に一不安を抱いて大阪駅を出発、シートに板を渡して毛布を敷き、しばし安息を求めて汽車は走る。東洋一の施設を誇る登別温泉第一滝本館につき、地獄谷を見物す。民族の存亡に一種の好奇心と憧憬を抱いて、はるばるたずねたアイヌ部落は、すつかり現代化され、わずかに観光のアクセサリーとして歌や踊住居や服装の一部にその伝統を残すのみ、哀亡民族の生活は観光客を利用するより他に術のない生き方であろう。

民族の歴史をひめてゆくほろびゆくさだめかなしもアイヌは踊る

北の果オホーツク海岸の網走へと汽車は走る。東洋一の施設を誇る登別温泉第一滝本館につき、地獄谷を見物す。民族の存亡に一種の好奇心と憧憬を抱いて、はるばるたずねたアイヌ部落は、すつかり現代化され、わずかに観光のアクセサリーとして歌や踊住居や服装の一部にその伝統を残すのみ、哀亡民族の生活は観光客を利用するより他に術のない生き方であろう。

民族の歴史をひめてゆくほろびゆくさだめかなしもアイヌは踊る

北の果オホーツク海岸の網走へと汽車は走る。東洋一

一見は百聞にまさる

熊本大学教授
理学博士
松本唯一

昔中等教員検定の試験に有孔虫の実物鑑定が出た。蝸牛のようにグルグル巻いて室に仕切がある。原生動物で甚だ小さく、精々二、三粍のものである。それをある受験者がアンモナイトと答えたのである。アンモナイトといえば同じくグルグルまいて室に仕切はあるが小さくても二三糎、大きくなると五十糎もある化石で一度見ておりさえすれば間違えようたって間違えられるものではない。

この受験者は縮尺もない理科書の図面だけを見ていたものらしい誠に百聞は一見に如かない。

平瀬氏の公孫樹の精虫発見と並び称せられた蘚鉄の精虫発見で世界的名声を博した池野成一郎先生が東大農学部で植物学を講義されていた際、御自身の手で実験していない事柄については必ず「……だそうです」と申されたと聞くがこれこそ真に学者の態度といえる。徒に大言壮語もらし断定し、て見た所で自分自身の実験に基ずいていない講釈には威力も迫力もない。科学者は百見より一験に重きをおくのである。

かつて仏印の地質図を見て欲しく思つたが手に入らず、これを模写するのに私は助手と二人で夏休み全部をつぶした。学校の標本は勿論あまりよいことはないでも、さて自分で作るとなると、又捜すとなるとおおごとである。

水晶、黄鉄鉱の結晶一つ捜すのでも容易でない。自分で作つて見たり採集して見ると標本の有難さも分り、学問に対する興味も湧きそしてそれに関する知識もようとするのにそれ、将来の人類社会発展の場面を洞察しのものである。世の教育者たるもの、この研修旅行により、己が教師としての見闘や拡め、識見を高め、講学教導を力あるものとせねばならない。文部省も地方官庁も教員組合も一段との面に多大の力を効すべきであると信ずる。

マリモ会誕生

新潟縣の参加者

楽しい旅のグループ作る

憶い出しても楽しい北海道の夏の旅だった。帰途誰いうとなくわれわれ一行を「マリモ会」と呼んでいた。そして八月三十日には皆さんに加茂へお越しを願い、市内産業の紹介をかね、旅の想い出を再現してもらった。写真は当日参加されたマリモ会真になごやかな雰囲気、本部からは永井熙氏、ツーリストからは笹川さんの特別参加もお願いしての賑やかさ。十日間の旅はもう一挙にして仲良し「旅のグループ」二十数名をつくり上げてくれた。マリモの唄、湖畔の花、ことにアイヌの唄等一入北海道の情緒を偲ばさるに充分、中でも約一時間にわたるソーラン節の全員乱舞は皆さんの心を一つに結んでくれた。こんな雰囲気なればこそ来年度旅の計画案が持出され九州方面にせよ、南紀四国方面にせよ、会員相互連絡の上で互に誘い合って参加しようということに申合せた位でした。当日の参加者一同の写真を添え報告致します。（新潟班々長石井修一発）

写真は当日参加されたマリモ会の皆さん

「友の会」生る

石川縣の参加者 金沢市で結成

研修旅行に参加した石川県の先生方は、九月十九日金沢市に集つて全修協「友の会」を結成した。当日は金沢市、石川郡、羽咋郡、珠洲市、鳳至郡、能美郡、小松市などより二十四名が集り、簡単な規約を定め、会長（石川郡戸板小学校吉田正信氏）や副会長（小松市稚松小学校喜多庄助氏と羽咋郡紺屋小学校中泉武彦氏）を選出した後、反省座談会を開催、和気あいあいの中に、時の過ぎるのを忘れる程、旅の憶い出や感想を互に語り合つた。（石川県支部長、内田武雄発）